

「水引中学校のみなと六尺棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立水引中学校

2 学年・人数

中学2・3年生（計36人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年6月～9月 ふるさと・コミュニケーション科の時間
(本校グラウンド, 本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和元年9月29日(日) 水引小・中合同運動会(本校グラウンド)
令和元年10月19日(土) 青少年育成子ども会大会(国際交流センター)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

みなと六尺棒踊り(みなとろくしゃくぼうおどり)

(2) 由来

港町に伝わる郷土芸能である。鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ、農地荒廃、賦役頻繁、自衛のための武器所有も許されずという有様で農民は、棒で護身するしかなかった。港地区では昭和27年に青年団により踊られたのを最後に長年途絶えていたが、70歳代の方々が中心となり50年ぶりに復活した。現在、保存会の方々が中心となって継承し、毎年6月に新田神社に踊りを奉納している。

(3) 構成等

6尺棒を使った「棒踊り」、8人が一組になり、歌者の「おーせーへーろー・・・」という歌に合わせて、踊り手が「さーさーさ」というかけ声を出しながら、棒を体の上・下部で合わせてたたいたり、棒で地面をたたいたりしながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

「みなと六尺棒踊り」保存会の方々と、年度当初に練習計画及び発表の場、踊りに必要な道具等について打合せを行った。練習には、毎回、歌者の方を含め5・6人の保存会の方々に指導していただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

第1回目の練習時に、保存会の方から「棒踊」の歴史や由来、保存会の活動等について生徒に説明していただき、生徒の興味や関心を高めるようにした。また、運動会を披露の場とし、地域のたくさんの皆さんの前で踊ることを目標にしたことで、生徒たちは意欲的に練習に取り組んだ。11月23日(土)の川内港まつりの場でも発表した。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



（実演を交えた保存会の方々の指導）



（実演を交えた保存会の方々の指導）



（青少年育成子ども会大会での踊りの披露）



（小・中合同運動会での踊りの披露）

8 参加生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

（生徒の感想）

- ・ 最初は棒の振り方が分からなかったけど、だんだん体に染み付いてきた。地域の伝統を守れてうれしい。
- ・ 友達と元気よく踊ることができたので、保存会の皆さんに感謝したい。
- ・ 練習はきつかったけれど、運動会ではうまく踊れた。これからも何事にも積極的に参加するようにしたい。
- ・ 大勢の人たちに披露できてよかった。伝統の踊りを後輩へも伝えたい。

（保存会の方の感想）

- ・ 生徒たちは、覚えが早い。運動会以外のイベントにも参加してもらいたい。
- ・ 学校が伝承活動に取り組んでもらい非常にありがたかった。保存会としても、今回の活動を機会に、踊りに関心がある人は誰でも踊りに参加できるような体制を作っていきたい。

（教員の感想）

- ・ 郷土に伝わる伝統芸能を生徒と一緒に体験でき、よい経験になった。生徒達には、各地域の伝統芸能に興味をもち、積極的に伝承活動に参加してほしい。
- ・ 郷土芸能を学ぶことは、郷土を知り、郷土を愛することに繋がると思う。今回の学習は大変意義深いものであったと思う。